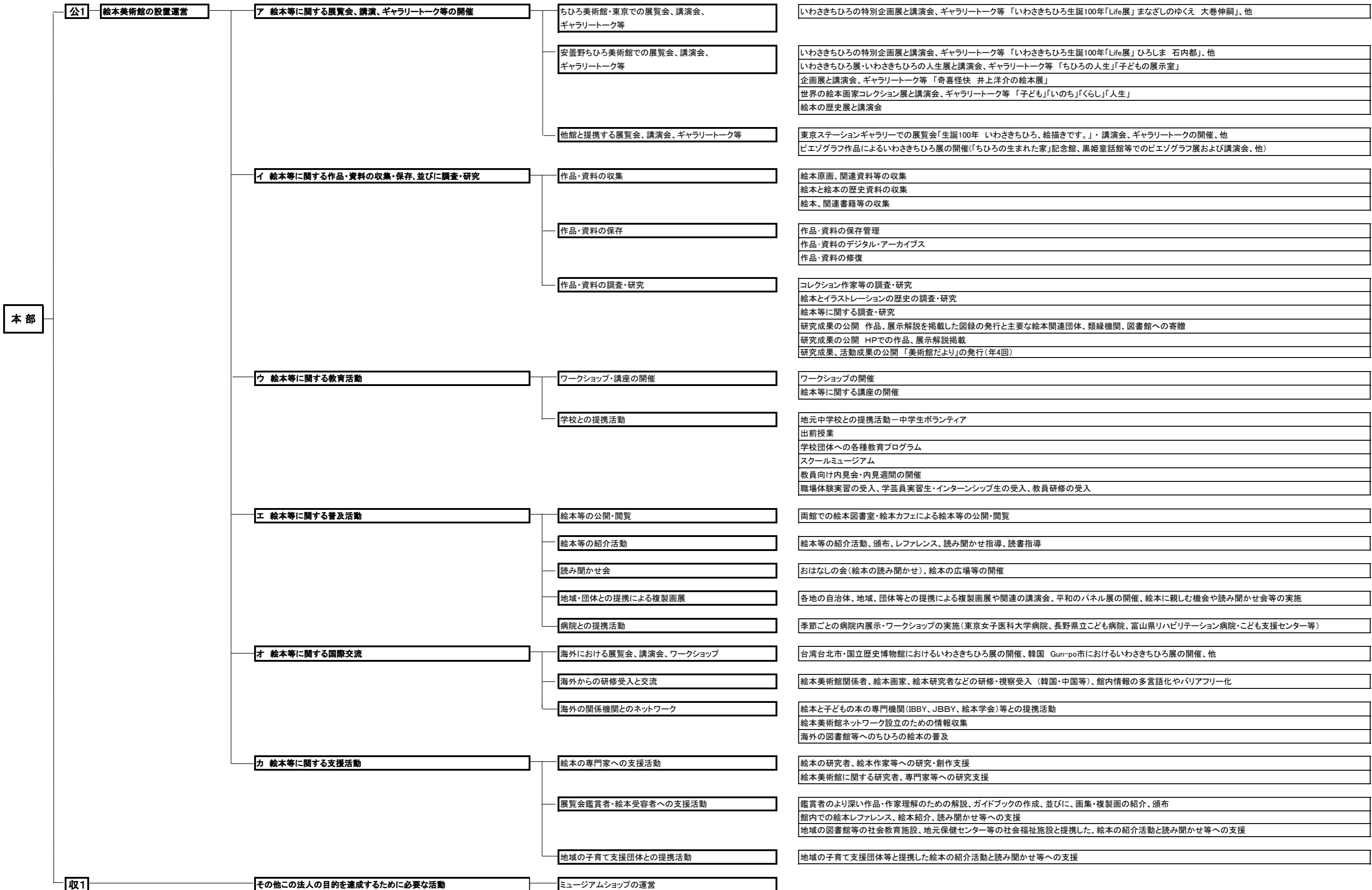


2018年度 事業報告書

2018年4月1日～2019年3月31日

I	2018年度事業報告 事業の体系図	1
II	2018年度事業報告一覧	2

公益財団法人いわさきちひろ記念事業団



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団 2018年度事業報告一覧

事業	個別事業名	実施内容	実績	実施時期	実施場所
公1 絵本美術館の設置運営					
ア 絵本等に関する展覧会・講演会の開催					
■ちひろ美術館・東京での展覧会・講演会、ギャラリートーク等					
【いわさきちひろの特別企画展】	いわさきちひろ生誕100年「Life展」 まなざしのゆくえ 大巻伸嗣	「物質と空間・存在」をテーマに制作活動を続ける現代美術作家の大巻伸嗣が、ちひろ美術館・東京の空間全体を使って、ちひろの絵の世界を旅するような体験をうみだす展覧会を構成した。本展にあわせて制作された大巻伸嗣のEchoes-Crystallizationシリーズの最新作も加え、今までにない新たな視点から「生きる力」を喚起した。（花王芸術・科学財団：平成30年度助成金対象事業）	10,145名	3月1日～5月12日	ちひろ美術館・東京
	いわさきちひろ生誕100年「Life展」 着るをたのしむ spoken words project	ちひろの絵や服とともに、ファッションを手掛ける spoken words project（スポークンワーズプロジェクト）がちひろのイメージをもとに新たに制作した生地や服を展示した。spoken words project の視点を通して、ちひろのセンスが現代のファッションとしてよみがえるとともに、ちひろが残した衣服を通じてその人柄や、つくり手としての技術もうがえる展覧会となった。	9,612名	5月19日～7月22日	ちひろ美術館・東京
	いわさきちひろ生誕100年「Life展」 あそぶ plaplax	plaplax（プラプラックス）は、ちひろの水彩画や絵本をもとにしながら、「あそぶ」をテーマに参加型の作品を制作した。ちひろの絵のなかに入ってあそぶ映像作品「絵のなかの子どもたち」や、からだをいっぱい使って絵本の世界を楽しむ「絵本をみるための遊具」などを通し、ちひろの世界を体感する展示を展開した。	19,177名	7月28日～10月28日	ちひろ美術館・東京
	いわさきちひろ生誕100年「Life展」 作家で、母で つくる そだてる 長島有里枝	家族にまつわる記憶や関係性を手がかりに、自身のライフストーリーや社会の陰に隠れてきた女性の創造性に光をあてる作品を制作してきた長島有里枝。その視点は画家であり母であったちひろの作品と響きあう。女性に課せられる規範と折り合いをつけながら表現を行う女性アーティストとして、ふたりの生き方が交差する展覧会となった。	14,106名	11月3日～2019年1月31日	ちひろ美術館・東京
【講演会】	いわさきちひろ生誕100年「Life展」 まなざしのゆくえ 大巻伸嗣 アーティストトーク	大巻伸嗣が、自身のこれまでの創作や、展覧会を通して感じたちひろの「Life」について語った。	55名	4月21日	ちひろ美術館・東京
	いわさきちひろ生誕100年「Life展」 あそぶ plaplax アーティストトーク	plaplaxの近森基と小原藍がこれまでの創作や、ちひろ作品とのコラボレーションの発想から制作までの過程、ちひろ作品への思いについて語った。	37名	9月8日	ちひろ美術館・東京
	いわさきちひろ生誕100年「Life展」 作家で、母で つくる そだてる 長島有里枝 鼎談	長島有里枝と愛知県美術館学芸員の中村史子、PGIディレクターの高橋朗による鼎談。女性として芸術家として、キュレーターとして、それぞれの立場から、ちひろと長島有里枝の作品について語った。	58名	11月25日	ちひろ美術館・東京
【ギャラリートーク】	松本猛ギャラリートーク	ちひろの息子である松本猛が、母の思い出や作品にまつわるエピソード、展示の見どころなどを語った。	各回20～30名	4月1日、6月10日、9月2日、11月18日	ちひろ美術館・東京
	spoken words project 飛田正浩によるギャラリートーク	spoken words projectの飛田正浩が、展示室を巡りながら、ちひろの作品や自作についての解説を行った。	各回20～30名	5月19日、6月2日、7月22日	ちひろ美術館・東京
	夏休み子どもギャラリートーク	夏休み期間中、小・中学生と保護者を対象としたギャラリートークを普及担当者が行った。	54名	8月13日、20日	ちひろ美術館・東京
	展示担当者、普及担当者によるギャラリートーク	開催中の各展示の見どころ等を、作品を見ながら展示担当者や普及担当者が解説した。	各回10～20名	毎月第1、3土曜日	ちひろ美術館・東京
■安曇野ちひろ美術館での展覧会・講演会、ギャラリートーク等					
【いわさきちひろの特別企画展】	いわさきちひろ生誕100年「Life展」 あそぶ plaplax	plaplax（プラプラックス）は、ちひろの水彩画や絵本をもとにしながら、「あそぶ」をテーマに参加型の作品を制作した。ちひろの絵のなかに入ってあそぶ映像作品「絵のなかの子どもたち」や、からだをいっぱい使って絵本の世界を楽しむ「絵本をみるための遊具」などを通し、ちひろの世界を体感する展示を展開した。	23,345名	3月1日～5月7日	安曇野ちひろ美術館
	いわさきちひろ生誕100年「Life展」 ひろしま 石内都	1945年8月6日に広島原爆で被爆した人たちの遺品のなかから、直接肌身に触れたものを中心に選び、撮影し続けている石内都。一方、ちひろは広島で被爆した子どもたちの作文に絵をつけた『わたしがちいさかったときに』を描いた。ふたりの女性アーティストがとらえた「ひろしま」を起点とした作品が共鳴しあう展示を行った。	25,532名	5月12日～7月16日	安曇野ちひろ美術館
	いわさきちひろ生誕100年「Life展」 子どものへや トラフ建築設計事務所	建築、インテリア、プロダクトなど幅広い領域を横断しながら活動しているトラフ建築設計事務所は、ちひろが好んで描いたモチーフである「帽子」に着目し、帽子を巨大化した空間として「子どものへや」をつくった。会期中にはここで、中学生ボランティアによる水彩技法ワークショップや、帽子を描くワークショップ、絵本の読み聞かせなどを開催し、遊ぶようにちひろの世界を体験する展覧会とした。	55,273名	7月21日～9月25日	安曇野ちひろ美術館

事業	個別事業名	実施内容	実績	実施時期	実施場所
【いわさきちひろの特別企画展】	いわさきちひろ生誕100年「Life展」 みんないきてる 谷川俊太郎	谷川俊太郎がこれまでに創作してきた膨大な詩には、森羅万象が含まれ、無限の広がりを感じられる。一方で、ちひろの絵には身近にある小さないのちの愛しさ、尊さが謳われている。異なる個性をもつ谷川の詩とちひろの絵を組み合わせ、あらゆるものに息づくいのちに耳を傾ける展覧会を行った。本展開催にあわせ、谷川が初めてちひろの子どもの絵に詩をつけた絵本『なまえをつけて』も書き下ろし展示した。	33,046名	9月29日～12月16日	安曇野ちひろ美術館
【いわさきちひろ展】	ちひろの人生	ちひろゆかりの品々や素描・スケッチをはじめ、影響を受けた画家の作品等を展示するとともに、ちひろの人生を紹介するパネルや生前を知る人たちの証言映像や、ちひろの水彩技法の細部が拡大して見られる映像のタッチパネル等を通して、ちひろの絵と人間像を伝えた。		通年	安曇野ちひろ美術館
	子どもの展示室(トットちゃんの部屋)	『窓ぎわのトットちゃん』に登場する電車の教室を一部再現し、教室のなかで勉強するような感覚でワークショップを開いたり、小さな穴をのぞいて楽しむ「のぞき箱」の他、日々自由に参加できるワークショップなど、トットちゃんの世界を通じて子どもたちの視線で楽しむことのできるプログラムや展示を行った。		通年	安曇野ちひろ美術館
【企画展】	<企画展> 奇喜怪快 井上洋介の絵本展	絵本、漫画、イラストレーションなど、幅広い分野で活躍した画家・井上洋介。最初の絵本『おだんごばん』(1960年)から、ロングセラーとなった『くまの子ウーフ』、1970年代から展開した自作絵本『ちょうつがいの絵本』『でんしゃえほん』など、絵本の仕事を中心に、タブローや漫画などの作品も展示した。鬼気迫る描写力と、ナンセンスやユーモラスな表現をあわせ持つ独自の世界を紹介した。	(55,273名)	7月21日～9月25日	安曇野ちひろ美術館
【世界の絵本画家コレクション展】	ちひろ美術館コレクション展 子ども	ちひろ美術館コレクションから、あそびを中心に「子ども」をテーマにした作品を展示した。それぞれの地域や国、文化が異なるなかでも、あそびに興じる子どもの姿は世界共通のものがある。友だちや家族とのあそびを通じて、成長していく子どもの姿を紹介した。	(23,345名)	3月1日～5月7日	安曇野ちひろ美術館
	ちひろ美術館コレクション展 いのち	ちひろ美術館コレクションから、「いのち」をテーマにした作品を展示した。絵本のなかには、人や動物はもちろん虫や草花など、さまざまな生きとし生けるものが登場する。いのちや自然に対する尊厳が感じられる、生命力にあふれた作品の数々を紹介した。	(25,532名)	5月12日～7月16日	安曇野ちひろ美術館
	ちひろ美術館コレクション展 暮らし	ちひろ美術館コレクションから、世界の人びとの「暮らし」をテーマにした作品を展示した。国や地域によって異なる文化や風土に根ざした多様な暮らしとともに、共通する人と人や家族とのきずながみられる作品を紹介した。	(55,273名)	7月21日～9月25日	安曇野ちひろ美術館
	ちひろ美術館コレクション展 人生	ちひろ美術館コレクションから、「人生」をテーマにした作品を展示した。誕生や老いなど人生のさまざまな場面を描いた絵本や、画家自身の人生が投影された絵本などを紹介した。あわせて、谷川俊太郎がことばや翻訳を手がけた絵本を紹介するコーナーも設けた。	(33,046名)	9月29日～12月16日	安曇野ちひろ美術館
【絵本の歴史展】	絵本の歴史	紀元前エジプトの「死者の書」や4～5世紀のフランドルの時禱書、日本の絵巻物や江戸時代の草双紙、20世紀初頭の絵本にいたるまで、絵本とイラストレーションの歴史に関わる作品・資料を、「手描き本の時代」「版本の時代」「子どもの本の時代(印刷本)」の3つの時代に分け、紹介した。		通年	安曇野ちひろ美術館
【講演会】	いわさきちひろ生誕100年「Life展」 ひろしま 石内都 アーティストトーク	石内都が、これまでの作品などを見せながら、自身が取り組んだ本展を通して感じ取ったちひろの「Life」について語った。	31名	5月12日	安曇野ちひろ美術館
	いわさきちひろ生誕100年「Life展」 ひろしま 石内都 関連講演会 対談「ひろしま」石内都とアーサー・ビナード	詩人・翻訳家のアーサー・ビナードと石内都が、それぞれが向き合っている「ひろしま」について語り合った。	81名	6月28日	安曇野ちひろ美術館
	いわさきちひろ生誕100年「Life展」 ひろしま 石内都 関連上映会	ドキュメンタリー映画「ひろしま 石内都・遺されたものたち」の上映会を開催した。	60名	6月9日、10日(各日2回上映)	安曇野ちひろ美術館
	いわさきちひろ生誕100年「Life展」 子どものへや トラフ建築設計事務所 アーティストトーク	トラフ建築設計事務所の鈴野浩一と禿真哉が、トラフのこれまでの仕事やその背景にある考え方、本展にあわせて制作した「子どものへや」などについて語った。	45名	7月21日	安曇野ちひろ美術館
	<企画展> 奇喜怪快 井上洋介の絵本展 関連 桑原茂夫講演会	井上洋介と親交のあった詩人で編集者の桑原茂夫が、井上が生きた時代とともにその画業やその魅力を語った。(長野県:平成30年度地域発元気づくり支援金対象事業)	30名	9月2日	安曇野ちひろ美術館
	谷川俊太郎によるトークと詩の朗読	谷川俊太郎がトークと自作の詩の朗読を行った。(聞き手:編集者・川口恵子/共催:松川村図書館、松川村教育委員会、松川村公民館)。	224名	10月14日	松川村 すずの音ホール
	展示担当者、普及担当者によるギャラリートーク	展示担当者や普及担当者が、作品を見ながら開催中の展示の見どころ等を解説した。	各回10～20名	毎月第2、4土曜日	安曇野ちひろ美術館

事業	個別事業名	実施内容	実績	実施時期	実施場所
【講演会】	いわさきちひろ生誕100年「Life」あそぶ展 plaplax ギャラリーツアー	展示担当者や普及担当者によるギャラリーツアーを、未就学児向け、小学生向けなど対象別に設定して行った。	計14名	3月10日、3月11日、3月17日	安曇野ちひろ美術館
■他館と提携する展覧会・講演会、ギャラリートーク等					
【展覧会】	生誕100年 いわさきちひろ、絵描きです。	生誕100年を記念して、いわさきちひろを「絵描き」として改めて捉え直す展覧会を開催した。ちひろの原画のほか、師事した画家の作品や原画が現存しない印刷物、新たに発見された幻燈などの資料も交えた約200点の展示物を、作品の背景や技術に注目しながら4章に分けて展示し、童画家・ちひろのイメージの刷新をはかった。	77,942名	7月14日～9月9日	東京ステーションギャラリー
	いわさきちひろ展「童・楽 - 岩崎知弘經典挿畫展」	いわさきちひろの作品100点を6部構成で紹介する、アジアで初めての大規模な原画展を開催した。いわさきちひろの画業とともに、ちひろの子どもの幸せと平和への願いを、作品や資料、ちひろ自身のことばなどを通して紹介した。	42,965名	11月16日～12月25日	美術館「えき」KYOTO(京都府)
	ピエゾグラフ作品によるいわさきちひろ展	ピエゾグラフによる複製画展を、開催希望自治体、団体、新聞社、施設と協力して行った。合わせてギャラリートークや講演会、水彩技法ワークショップなどを実施した。	計8,614名	①3月21日～6月11日 ②6月20日～9月3日 ③9月12日～11月26日 ④12月5日～2019年3月4日	「ちひろの生まれた家」記念館(福井県)
			5,501名	9月21日～12月24日	越前市武生公会堂記念館(福井県)
			計16,359名	春・夏・秋の3会期	黒姫童話館
			2,917名	12月1日～2019年1月6日	信濃毎日新聞松本本社新社屋ホール・メディアガーデン
	アトリエ移設記念展「はじまりはここから—岡田三郎助と女性画家たち—」	いわさきちひろの素描・油彩・水彩の代表作など原画10点を展覧した。	12,769名	4月1日～5月20日	佐賀県立美術館
	童謡誕生100年「童謡とわらべ唄—北原白秋から藪田義雄へ」展	清水良雄ピエゾグラフ1点、深澤省三ピエゾグラフ1点、岡本帰一ピエゾグラフ2点を展覧した。	3,270名	4月21日～6月17日	町田市民文学館
	「童画家・茂田井武」展	茂田井武の原画6点、ピエゾグラフ9点を展覧した。	9,524名	10月6日～12月24日	練馬区石神井公園ふるさと文化館
	「赤い鳥」創刊100年記念企画展『「赤い鳥」と主宰 鈴木三重吉」	清水良雄ピエゾグラフ1点、深澤省三ピエゾグラフ1点を展覧した。	76,500名	10月20日～12月28日	広島市立中央図書館
	「赤い鳥」と童画家たち展	清水良雄ピエゾグラフ1点、深澤省三ピエゾグラフ1点を展覧した。		10月27日～11月25日	刈谷市中央図書館(愛知県)
子どものための建築と空間	清水良雄原画2点、赤羽末吉『スーホの白い馬』原画2点、瀬川康男『いないいないばあ』原画3点を展覧した。	20,322名	2019年1月12日～3月24日	パナソニック汐留ミュージアム	
【講演会】	「生誕100年 いわさきちひろ、絵描きです。」展記念講演会「いわさきちひろ 画家になるまで」	講師：児島薫(実践女子大学文学部美学美術史学科教授) いわさきちひろの戦前の時代背景や美術教育等について語った。	約80名	8月4日	日本経済新聞社東京本社SPACE NIO
	講演会「母、いわさきちひろ」	講師：松本猛(ちひろ美術館常任顧問) 開催中の「いわさきちひろの歩み展」にあわせて母ちひろの画業と人生を語った。	200名	9月22日	越前市武生公会堂記念館(福井県)
【ギャラリートーク等】	いわさきちひろ展ギャラリートーク	講師：山田実穂(安曇野ちひろ美術館アソシエイト) 開催中の展示の見どころや各展示のエピソード等を、作品を見ながら解説した。	50名	9月21日	越前市武生公会堂記念館(福井県)
	いわさきちひろ展ギャラリートーク	講師：山田実穂(安曇野ちひろ美術館アソシエイト) 開催中の展示の見どころや各展示のエピソード等を、作品を見ながら解説した。	50名	11月10日	越前市武生公会堂記念館(福井県)
	「生誕100年 いわさきちひろ、絵描きです。」展ギャラリートーク	講師：上島史子(ちひろ美術館シニア・アソシエイト、主任学芸員) 展示の見どころなどを、展示室を巡りながら解説した。	約50名	11月16日	美術館「えき」KYOTO(京都府)
	モーニング・ミュージアム	講師：松本猛(ちひろ美術館常任顧問) 開館時間前に、展示の見どころや母ちひろについて、展示室を巡りながら解説した。	約50名	11月26日	美術館「えき」KYOTO(京都府)
イ 絵本等に関する作品・資料の収集・保存、並びに、調査・研究					
作品・資料の収集	絵本原画、関連資料等の収集	いわさきちひろの作品25点(購入1点、寄贈1点、返却23点)、中谷泰作品7点(寄贈)、ケーテ・コルヴィッツ作品2点、ドーミエ作品1点、松山文雄作品1点(購入)を、新規に収集した。		通年	両館
	絵本と絵本の歴史資料の収集	インドのミニチュール17点とインドの手描き本3点(寄贈)を、新規に収集した。		通年	両館

事業	個別事業名	実施内容	実績	実施時期	実施場所
作品・資料の収集	絵本、関連書籍等の収集	優れた芸術性を持つ魅力的な絵本の収集を進めた。		通年	両館
	作品・資料の保存管理	絵本原画を中心とした収蔵作品の適切な保存管理を行なうとともに、画像データベース等での作品管理を進めた。		通年	両館
作品・資料の保存	作品・資料のデジタル・アーカイブス	支持体、画材とも脆弱な水彩画であるいわさきちひろ作品や、世界の絵本画家作品のデジタル・アーカイブスを、右記の点数行った。	・ちひろ（26点） ・世界の絵本画家（6点）	通年	両館
	作品・資料の修復	支持体、画材とも脆弱な水彩画であるいわさきちひろ作品や、世界の絵本画家作品の作品、資料等の修復作業を、適宜行った。	・ちひろ「1950年代のポスター（シルクスクリーン）1点 ・同（印刷物）1点	随時	両館
作品・資料の調査・研究	コレクション作家等の調査・研究	生誕100年を機に、全作品の出典や原画の状態の詳細調査を再度行い、「ちひろ美術館収蔵作品目録ーいわさきちひろ」を編纂した。ちひろ生誕100年の大規模展では、東京ステーションギャラリーと協力し、ちひろに影響を与えた画家や時代背景等に関する研究を深め、新出の資料等の発見もあった。館内での展覧会では、現在活躍する多方面の作家等とのコラボレーションを行い、新たな視点からちひろを検証した。		通年	両館
	絵本とイラストレーションの歴史の調査・研究	両館で開催する展覧会ならびに、他館と協力して行う絵本の歴史展等に向けて、絵本とイラストレーションの歴史に関する調査・研究を進めた。		通年	両館
	絵本等に関する調査・研究	新旧の絵本の表現、テーマ、絵本の造形について調査・研究を進め、魅力的な絵本の要素を研究した。		通年	両館
	研究成果の公開 作品、展示解説を掲載した図録の発行と主要な絵本関連団体、類縁機関、図書館への寄贈	生誕100年を記念して、「ちひろ美術館収蔵作品目録ーいわさきちひろ」、「いわさきちひろ、絵描きです。」展図録等を制作した。また、収蔵作品目録等は、絵本関連団体、類縁機関、国際子ども図書館等の主要な図書館へ寄贈した。		通年	両館
	研究成果の公開 HPでの作品、展示解説掲載	調査、研究の成果を展覧会等に活かすとともに、作品解説、展示解説等にまとめ、逐次、HPにアップロードし、国内外にむけて発信した。		通年	両館
	研究成果、活動成果の公開 「美術館だより」の発行（年4回）	研究や活動の成果を、展示紹介、活動紹介等にまとめ、年4回発行する「美術館だより」やHPを通じて、公開した。	各館ごとに年4回・計8回の発行	通年	両館

ウ 絵本等に関する教育活動

ワークショップ・講座の開催	いわさきちひろ生誕100年記念講演会「いわさきちひろと岡田三郎助」	講師：野中耕介（佐賀県立美術館学芸員） ちひろが14歳のとき、初めて本格的な絵の手ほどきを受けた岡田三郎助の「女子洋画研究所」。若く多感な時期にちひろがここで受けた影響について、当時のアトリエの様子や、女子美術教育にかける岡田の熱意、岡田自身と教え子たちの画風の解説なども交えながら語った。	27名	8月25日	ちひろ美術館・東京
	ワークショップ ちひろの水彩技法体験	ちひろの水彩技法の特徴のひとつである「にじみ」を使って、実際に作品を制作するワークショップを行った（文化庁：平成30年度地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業の補助金対象事業）。	計404名	8月2～4日、2019年1月2～3日	ちひろ美術館・東京
	親子で楽しむ文化講座 わらべうたあそび	講師：服部雅子（西東京市もぐらの会代表、はとさん文庫主宰） 0、1、2歳の乳幼児とその保護者を対象にした、わらべうたあそびの会を開催した（文化庁：平成30年度地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業の補助金対象事業）。	計131名	4月21日、6月30日、9月29日、12月1日	ちひろ美術館・東京
	あかちゃんのための鑑賞会	講師：富田めぐみ（NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表） 0、1、2歳の乳幼児とその保護者を対象にした、あかちゃんのための鑑賞会を開催した（文化庁：平成30年度地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業の補助金対象事業）。	計41名	11月13日、2019年1月18日	ちひろ美術館・東京
	子どものための鑑賞会	講師：富田めぐみ（NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表） 3歳児～小学1年生とその保護者を対象にした、子どものための鑑賞会を開催した（文化庁：平成30年度地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業の補助金対象事業）。	計41名	11月13日、2019年1月18日	ちひろ美術館・東京
	子どもの幸せと平和を考える講座 親業講演会「—今日から実践できる—子どもに気持ちが伝わる話し方」	講師：田中満智子（親業訓練協会インストラクター） 親業訓練を通して、親子のよりよいコミュニケーションを学ぶ講座を開催した（文化庁：平成30年度地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業の補助金対象事業）。	40名	11月17日	ちひろ美術館・東京
	ワークショップ いわさきちひろ生誕100年「Life展」着るをたのしむ spoken words project	spoken words projectが、服をリメイクして、アートを表現するワークショップを行った。	16名	6月23日	ちひろ美術館・東京
	ワークショップ いわさきちひろ生誕100年「Life展」あそび plaplax 「色」×「音」×「体」であそぶ	展覧会に関連し、plaplaxの近森基と小原藍が、ピアニスト高見澤淳子とともに、参加者が水彩絵の具で描いた「にじみ」を「音」で表現するワークショップを開催した。	21名	4月14日	安曇野ちひろ美術館

事業	個別事業名	実施内容	実績	実施時期	実施場所
ワークショップ・講座の開催	ワークショップ「空気の器」に絵を描こう	トラフ建築設計事務所の鈴木浩一と禿真哉が、展覧会に関連し、空気の器に水彩絵の具等で絵を描くワークショップを開催した。	12名	7月21日	安曇野ちひろ美術館
	ワークショップ ちひろとコラボレーション「帽子を描こう」	トラフの「子どものへや」で、ちひろの子どもに帽子を描くワークショップを開催した。	ワークシート回収枚数:4,927枚	7月21日～9月25日	安曇野ちひろ美術館
	ワークショップ 中学生ボランティアと楽しむ夏休み「ちひろの水彩技法体験」	水彩絵の具の“にじみ”技法を体験し、帽子型の「子どものへや」に飾るオーナメントを作成するワークショップを開催した。	計1,044名	8月1日～16日	安曇野ちひろ美術館
	ワークショップ「ちひろの水彩技法体験」	講師:松方路子(安曇野ちひろ美術館アソシエイト) ちひろの水彩技法の特徴のひとつである「にじみ」を使って、実際に作品を制作するワークショップを行った。	91名	8月6日	室戸健康大学(高知県)
	ちひろ忌	ちひろの業績や人生を伝えるとともに、世界中の子どもに幸せと平和を願ったちひろの思いを、来館者とともに考える日として、ちひろの命日を「ちひろ忌」として、ギャラリートーク等を行った。	256名 819名	8月8日	ちひろ美術館・東京 安曇野ちひろ美術館
	ワークショップ「ちひろの水彩技法体験」	講師:中平洋子(ちひろ美術館シニア・アソシエイト) ちひろの水彩技法の特徴のひとつである「にじみ」を使って、実際に作品を制作するワークショップを行った。	29名	10月6日	越前市武生公会堂記念館(福井県)
	親子で楽しむ文化講座 ファーストミュージアムデー	「ベビーカーでお出かけしよう!」と題して、乳幼児とその保護者を対象に、子どもと一緒に、展示室を中心に館内各所で鑑賞会や、絵本の読み合いやふれあい遊びを行った。	32名	10月12日、11月10日	安曇野ちひろ美術館
	講演会「いわさきちひろの絵と人生」	講師:竹迫祐子(ちひろ美術館主席学芸員) 生誕100年を記念して、ちひろの画業と人生をたどり、子どもの幸せと平和への願いを語った。	60名	11月11日	みなと未来日本メモリアルセンター(神奈川県)
	講演会「いわさきちひろの絵と人生」	講師:竹迫祐子(ちひろ美術館主席学芸員) 生誕100年を記念して、ちひろの画業と人生をたどり、子どもの幸せと平和への願いを語った。	100名	11月17日	広島市南公民館(広島県)
	ワークショップ「ちひろの絵による『窓ぎわのトットちゃん』」	安曇野ちひろ公園トットちゃん広場と安曇野ちひろ美術館館内において、ちひろの絵が数多く掲載されている『窓ぎわのトットちゃん』のさまざまなエピソードを元に、関連したワークショップ等を、地域の方々や地元の学校の協力を得て、開催した。		随時	安曇野ちひろ公園・安曇野ちひろ美術館
来館団体への各種教育プログラム	団体での来館者を対象に、ちひろの水彩技法ワークショップや建物の見どころを紹介するたてものツアー、読み聞かせなどを組み合わせた教育プログラムを行った。		随時	両館	
学校との提携活動	地元中学校との提携活動ー中学生ボランティア	松川中学校と連携して中学生ボランティア育成のための研修を行い、夏休み中に、来館者を対象にした当館での体験ワークショップ、ガイドツアー、絵本の読み聞かせ等の活動を行なった。	延べ174名	6月20日～8月16日	安曇野ちひろ美術館
	松川中学校3年生への石内都講演会	広島への修学旅行を経験した地元松川中学校3年生を対象に、石内都展の鑑賞後、石内本人による講演会を行った。	99名	6月29日	安曇野ちひろ美術館
	出前授業、出前講座	いわさきちひろやちひろの技法について、学校や教員の研究協議会等に出向いて出前授業を企画、実施した(文化庁:平成30年度地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業の補助金対象事業)。	計3校、198名	10月3日、2019年1月15日、3月5日	青梅市立若草小学校、練馬区立高松小学校、立川市立南砂小学校
		いわさきちひろやちひろの技法について、学校や教員の研究協議会等に出向いて出前授業を企画、実施した。	計7回、336名	6月2日、16日、9月19日他	松川小学校、大町南小学校、信毎メディアガーデン他
	学校団体への各種教育プログラム	授業や修学旅行などで来館した学校や特別支援学校を対象に、ちひろの水彩技法ワークショップや美術館探検、トットちゃん広場オリエンテーリング、読み聞かせなどを組み合わせた館内外での教育プログラムを行った。	計13件、471名	4月27日、5月16日、6月14日、7月4日他	安曇野ちひろ美術館
	スクールミュージアム	長野県内の希望校を対象に、展覧会のつくり方を指導、複製画等の貸し出しを行い、生徒の力で展覧会が開催できるよう生徒キュレーター育成を行った。	1校	9月28日～10月5日	大桑中学校(木曾郡大桑村)
	教員向け内見会・内見週間の開催	教員を対象とする内見会・内見週間を開催し、学校との連携活動を行った(文化庁:平成30年度地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業の補助金対象事業)。	計3回、12名	5月19日～5月27日、11月3日～11日、2019年3月21日～31日	ちひろ美術館・東京
		教員を対象とする内見会・内見週間を開催、学校との連携活動を行った。	計2回、32名	7月30日～8月8日、11月3日～11月11日	安曇野ちひろ美術館
	職場体験実習の受入れ	練馬区近辺、松川村近辺の中学校・高等学校からの職場体験実習を受入れ、学校との連携活動を行った(東京館:石神井中学校3名、井草中学校2名、石神井南中学校3名、立川国際中等教育学校5名、西高等学校1名/安曇野館:松川中学校3名)。	中学生8名、高校生6名	6月28～29日、8月2日～4日、8月20日～21日、9月4日～5日、9月11日～13日	ちひろ美術館・東京
			中学生3名	8月2日～3日、9月4日～5日	安曇野ちひろ美術館
学芸員実習、インターンシップ生の受入	学芸員実習生の受入(東京館:武蔵野美術大学1名、八洲学園大学1名/安曇野館:立教大学1名)と、大学などからのインターンシップ生(安曇野館:清泉女学院大学短期大学2名)受入を行った。	計2校2名	7月12～8月11日、12月11日～12月19日	ちひろ美術館・東京	

事業	個別事業名	実施内容	実績	実施時期	実施場所
学校との提携活動	学芸員実習、インターンシップ生の受入	学芸員実習生の受入(東京館:武蔵野美術大学1名、八洲学園大学1名/安曇野館:立教大学1名)と、大学などからのインターンシップ生(安曇野館:清泉女学院大学短期大学2名)受入を行った。	計2校3名	学芸員実習:9月6日~10日、インターンシップ8月1日~15日、2019年2月12日~22日	安曇野ちひろ美術館
	教員研修の受入れ	近隣の小学校から教員10年目研修や、図工部会の研修等を受入れ、将来的な連携の可能性についても協議した(東京館:杉並区立四宮小学校2名、小平市立第二小学校1名、青梅市立若草小学校特別支援学級教員10名、杉並区図工部会17校・文化庁:平成30年度地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業の補助金対象事業/安曇野館:豊科高校教員1名、松本県ヶ丘高校教員1名)。	計20校21名	7月28日~8月23日、8月24日、10月24日	ちひろ美術館・東京
			計2校2名	8月2日~3日	安曇野ちひろ美術館

エ 絵本等に関する普及活動

絵本等の公開・閲覧	両館での絵本図書室・絵本カフェによる絵本の公開・閲覧	長きに渡って愛され続ける絵本とともに、新刊等幅広い国内外の絵本を、絵本の専門美術館としての視点で選書し、芸術性に優れた魅力的な絵本を配架し、両館の絵本図書室・絵本カフェ等での閲覧に供した。		通年	両館
絵本等の紹介活動	コレクション作家・企画展作家・その他の世界の絵本作家の絵本等の紹介、頒布、レファレンス、読み聞かせ指導、読書指導	当館の視点で選書した国内外の絵本を、絵本図書室、HP等で紹介、普及、頒布するほか、どのような絵本を選べばよいのか、どのように読めばよいのか等々、来館者をはじめ、幅広い求めに応じて、適宜、選書や読み聞かせの方法等についてアドバイスを行い、日々の暮らしのなかで身近に絵本が楽しめるよう支援を行った。		通年	両館
読み聞かせ会	おはなしの会(絵本の読み聞かせ)、絵本の広場等の開催	絵本の理解を深め、鑑賞をより充実したものとするため、両館それぞれで、定期的に絵本の読み聞かせ会を開催した。また展覧会などにあわせてテーマを決めた読み聞かせ会や、学校・保育園等からの要望に応じて団体鑑賞の際の読み聞かせも行った。	計23回、延べ612人 計42回(うち学校団体等23回)、計1,119名	毎月第2、4土曜日他	ちひろ美術館・東京 安曇野ちひろ美術館
	帽子のなかのおはなしの会	「子どものへや トラフ建築設計事務所」の会期中、トラフの「子どものへや」のなかで、おはなしの会を開催した。	計108名	7月28日、8月25日、9月8日、22日	安曇野ちひろ美術館
	平和の絵本のおはなし会	「ひろしま 石内都」に関連し、松川中学校の図書委員とともに、平和をテーマにした絵本の読み聞かせを行った。	計2回、42名	7月7日	安曇野ちひろ美術館
地域・団体との提携による複製画展	各地の自治体、地域、団体との提携による、複製画展等の開催	各地の自治体、地域、団体等の求めに応じて、複製画展や関連の講演会を開催するとともに、絵本に親しむ機会を設け、読み聞かせ会等を実施した。	3,352名	8月1日~12日	都留市立図書館(山梨)
			1,119名	8月3日~5日	津平和のための戦争展(三重)
			約300名	8月8日~13日	新日本婦人の会 可児支部(岐阜)
				8月16日~18日	新日本婦人の会 御嵩支部(岐阜)
	希望する施設・団体・学校との提携による、平和のパネル展の開催	ちひろの平和への願いを伝えるために、平和の絵本2冊のパネルを、希望する施設・団体・学校に貸し出した。	350名	9月21日~23日	平和のための信州・戦争展(長野)
			約500名	8月6日~8月10日	原水爆禁止高津区協議会
				8月17日~8月30日	浦安市堀江公民館
	175名	8月24日~8月25日	9条の会・豊中いちばん星(豊中市千里文化センター)		
	300名以上	9月9日	鳥取市9条の会(とりぎん文化会館)		
		12月1日~12月20日	熊本県菊池市中央図書館		
病院との提携活動	季節ごとの病院院内展示・ワークショップの実施	来館が難しい患者やその家族を対象に、病院内での複製画展を行うとともに、絵本に親しむ機会を設けた。		随時	東京女子医科大学病院 聖路加国際病院 長野県立こども病院 埼玉医科大学総合周産期母子医療センター 国立成育医療研究センター 同センター内子どもホスピス「もみじの家」 富山県リハビリテーション病院・こども支援センター

事業	個別事業名	実施内容	実績	実施時期	実施場所
オ 絵本等に関する国際交流					
海外における展覧会・講演会、ワークショップ等	いわさきちひろ展「童・楽 - 岩崎知弘經典挿畫展」	いわさきちひろの作品100点を6部構成で紹介する、アジアで初めての大規模な原画展を開催した。いわさきちひろの画業とともに、ちひろの子どもの幸せと平和への願いを、作品や資料、ちひろ自身のことばなどを通して紹介した（ア 絵本等に関する展覧会・講演会の開催 にも記載）。	(15,764名)	2月1日～4月22日	台湾台北市・国立歴史博物館
	韓国軍浦市(Gun-po)におけるいわさきちひろと日本の絵本の歴史展と普及	軍浦市(Gun-po)で開催された「韓国と日本：絵本と絵本美術館を考えるフォーラム」の一環として、新設された市立絵本図書ギャラリーで、いわさきちひろのピエゾグラフ作品を展示し、ちひろの世界を紹介するとともに、日本の絵本の歴史資料も展示した。同フォーラムでは、世界初の絵本美術館としての歴史と理念を伝えるとともに、ギャラリートーク、いわさきちひろに関するレクチャーを行った。(講師：竹迫祐子)	4,017名	6月1日～7月18日	韓国Gun-po市・市立絵本図書ギャラリー
	インドネシアにおけるちひろと日本の絵本画家展	インドネシアの絵本関係団体と提携し、インドネシア子どものお話フェスティバルのなかで、いわさきちひろや日本の絵本の普及をおこなった。ピエゾグラフ展、作家・村上康成と出久根育のワークショップやトーク、および『窓ぎわのトットちゃん』に関するトークや水彩技法体験等を行った。(講師：松方路子・田邊絵里子／国際交流基金：平成30年度第2回アジア・市民交流助成金対象事業)	2,107名	2019年1月23日～2月17日	インドネシア・バンドウン工科大学
海外からの研修や来館者受入と交流	韓国の絵本関係者の研修・交流	韓国の絵本画家や編集者など絵本関係者を対象に美術館の研修を行い、あわせて地元の子どもたちと交流し、相互理解、絵本文化の普及をさらに進めた。		6月14日～16日	両館
	アジアや世界の絵本関係者の視察・調査等の受入	世界初の絵本美術館として、アジアや世界の絵本や図書館、美術館関係者に当館の展示や保存技術、運営や理念等を紹介するため、視察に対応をした。		随時	両館
	館内情報の多言語化やバリアフリー化	さまざまなニーズをもった来館者に対応すべく、館や展示の紹介等を多言語化およびバリアフリー化を進めた。		通年	両館
海外の関係機関とのネットワーク	絵本と子どもの本の専門機関(IBBY、JBBY、絵本学会)等との提携活動	絵本と子どもの本の国際的な専門機関であるIBBY (International Board on Books for Young People)や、国内の専門機関であるJBBY、絵本学会、全国絵本ミュージアムネットワーク等との交流を深め、絵本文化の発展のための相互協力に努めた。		随時	両館
	絵本美術館ネットワーク設立のための情報収集	国を超えた絵本美術館ネットワークを構築するために、調査を行い、情報交換を行った。		随時	両館
	海外の図書館等へちひろや日本の絵本画家の絵本の普及	海外の国際交流基金や公立図書館等に、ちひろや日本の絵本画家の絵本を紹介し、普及に努めた。		随時	両館
カ 絵本等に関する支援活動					
絵本の専門家への支援活動	絵本の研究者、絵本作家等への研究・創作支援	絵本の研究を目指す学生、専門家、また、絵本作家等の絵本の専門家からの問い合わせに応え、レファレンス等を行った。		随時	両館
	絵本美術館に関する研究者、専門家等への研究支援	絵本美術館について学ぶ学生や専門家を対象に、求めに応じて、それぞれの研究テーマを吟味した上で、当財団の絵本専門美術館の設置・運営に関する経験と実績、資料を提供し、その活用をもって研究活動を支援した。		随時	両館
展覧会鑑賞者・絵本受容者への支援活動	鑑賞者のより深い作品・作家理解のための解説、ガイドブックの作成、並びに画集・複製画の紹介、頒布	鑑賞者が作品や作家に興味を持ち、理解を深めるための手助けとして、解説やガイドブック、ワークシート等を作成、館内配布やWEB配信をするとともに、画集や複製画の紹介、頒布等を行い、それらを通して作品鑑賞を手助けする活動を行った。		随時	両館
	館内での絵本レファレンス、絵本紹介、読み聞かせ等への支援	絵本の問い合わせ等に随時対応する他、来館者を対象に絵本の紹介や、読み聞かせの方法等について指導を行った。		随時	両館
	地域の図書館等の社会教育施設、地元保健センター等の社会福祉施設と提携した絵本の紹介活動と読み聞かせ等への支援	地域の保育園、幼稚園、学校、図書館等の社会教育施設、地元保健センター等の社会福祉施設等と協力し、求めに応じて、絵本の選び方や読み聞かせの方法等についてアドバイスをを行い、地域住民が生活のなかで日常的に絵本が楽しめるよう支援した。		随時	両館
地域の子育て支援団体との提携活動	地域の子育て支援団体等と提携した絵本の紹介活動と読み聞かせ等への支援	地域の子育て支援団体や保護者のサークル等と協力し、求めに応じて、絵本の選び方や読み聞かせの方法等についてアドバイスをを行い、地域住民が生活のなかで日常的に絵本が楽しめるよう支援した。また、松川村保健センターと協力し、絵本の出会い事業として、同村の新生児とその保護者を対象にファーストブックを贈呈し、絵本の選び方や読み聞かせ等についてアドバイスをを行った。	計67名	年6回	安曇野ちひろ美術館／松川村保健センター
その他					
被災地支援	災害支援の取り組み	東日本大震災の被災証明を提示した来館者は全員無料とした。	東京館 19名 安曇野館 24名	通年	両館
		館内の来館者に対し、熊本地震、豪雨災害、北海道胆振東部地震の被災地支援の義援金を呼びかけた。	総額100,169円	通年	安曇野ちひろ美術館
無料入館日	高校生以下無料	子どもたちがいつでも訪れることができる場所として、2005年以降行ってきた高校生以下無料入館の対応を、ひきつづき行った。	東京館8,499名 安曇野館15,017名 計23,516名	通年	両館

事業	個別事業名	実施内容	実績	実施時期	実施場所
無料入館日	無料入館日の取り組み	美術館が人々にとって、魅力的で楽しい場所となるよう、受け入れを工夫し、美術館が社会に果たす役割を高め、より広範の人々にアピールする好機として、右記の通り、両館で無料入館日を設けた。なお安曇野館では、近隣市町村の人々により当館に親しんでもらうため、松本市から白馬村までの近隣市町村ごとと、長野県民対象とした無料入館日を、右記の通りそれぞれに設けた。	239名	5月18日(国際博物館の日)	安曇野ちひろ美術館
			65歳以上の方対象 東京館 78名 安曇野館 293名	9月17日(敬老の日)	両館
			計2,186名	池田町・生坂村:4月22日	安曇野ちひろ美術館
				大町市:5月20日	
				松本市:6月3日	
				白馬村・小谷村:9月2日	
				安曇野市:9月30日	
	長野県:12月2日、3月24日				
	松川村:3月10日				
(256名)	8月8日(ちひろ忌/ウ 絵本等 に関する教育活動にも記載)	ちひろ美術館・東京			
(819名)		安曇野ちひろ美術館			
1,455名	12月15日(いわさきちひろの誕生日)	ちひろ美術館・東京			
支援会員制度等	支援会員(寄付会員)制度等、寄付の取り組み	当財団およびちひろ美術館(東京・安曇野)の理念を積極的に伝え、世界的にも散逸しやすい絵本原画の収集・保存・研究・展示公開、並びに、絵本の普及や国内外での絵本文化支援活動を支えていただく寄付を呼びかけ、支援会員制度他の寄付を受けた。	支援会員数453名 (新規106名・継続347名)	通年	両館

取1

その他この法人の目的を達成するために必要な活動	ミュージアムショップの運営	来館者の展覧会鑑賞がより豊かなものとなるよう、ミュージアムショップの運営を行う。		通年	両館
-------------------------	---------------	--	--	----	----

■2018年度事業報告 入館者数一覧

1.絵本美術館の設置運営

2018年度の入館者数は、ちひろ美術館・東京 53,038名、安曇野ちひろ美術館 137,278名、両館合計で190,316名となった。

■ちひろ美術館・東京

2018年4月～2019年3月 入館者数内訳(月別)

月	開館日数	有料入館者数		無料入館者数						全入館者数	1日平均入館者数
		大人	小計	中学生	小学生	幼児	支援会員	招待者 その他無 料	小計		
4	26	3,161	3,161	57	109	295	11	313	785	3,946	152
5	24	3,772	3,772	51	90	247	11	503	902	4,674	195
6	26	3,388	3,388	51	83	284	13	378	809	4,197	161
7	23	3,228	3,228	115	160	311	5	396	987	4,215	183
8	29	4,568	4,568	710	537	827	18	526	2,618	7,186	248
9	26	4,055	4,055	77	282	718	15	415	1,507	5,562	214
10	24	4,464	4,464	45	247	633	13	509	1,447	5,911	246
11	24	3,314	3,314	119	96	367	20	512	1,114	4,428	185
12	23	2,184	2,184	29	106	425	8	1,545	2,113	4,297	187
1	26	4,002	4,002	59	250	527	15	528	1,379	5,381	207
3	27	2,375	2,375	69	110	413	13	261	866	3,241	120
合計	278	38,511	38,511	1,382	2,070	5,047	142	5,886	14,527	53,038	191
構成比		72.6%	72.6%	2.6%	3.9%	9.5%	0.3%	11.1%	27.4%	100.0%	
前年合計		35,859	35,859	1,161	1,734	3,440	142	5,143	11,620	47,479	168
前年比		107.4%	107.4%	119.0%	119.4%	146.7%	100.0%	114.4%	125.0%	111.7%	113.3%

- * 2018年4月～2019年3月の入館者総数は53,038名(1日の平均入館者数191名)。2017年度に比べ5,559名の増加(前年比111.7%)。目標数57,000人に対しては3,962名の未達となった(達成率93%)。
- * 入館者の内訳は有料入館者数38,511名(全体の72.6%)、無料入館者数14,527名(全体の27.4%)。
- * 入館者全体における割合は、大人(支援会員、その他無料含む):中学生:小学生:幼児が、84:3:4:9(2017年度は87:2:4:7)。
- * ちひろの命日8月8日を「ちひろ忌」とし、入館料を無料とした。
- * 例年通り、敬老の日(9月17日)は65歳以上の方の入館料を無料とした。
- * 12月15日に感謝デーを実施し、全入館者1,455名の入館料を無料とした(2017年度は967名)。
- * 年間パスポートの販売数は167枚・417,500円、リピーターを含む延べ利用者数は810名。
- * Life展パスポートの販売数は560枚・560,000円、Life展パスポートのリピーターを含む延べ利用者数は1,326名。
- * 「ぐるっとパス」入館者数は3,058名(2017年度3,456名、前年比89%)で、有料入館者の8%(2017年度は10%)、入館者全体の6%(2017年度は7%)。
- * 外国人利用者は年間約500名(前年比71%)。外国語入館案内の配布数内訳は、英語41%、韓国語49%、中国語簡体字(中国本土)36%、中国語繁体字(台湾・香港)28%。英語が前年の29%から41%に増加した原因は、シンガポール、タイ、ベトナムなど東南アジアからの個人旅行客が増加したため。

■安曇野ちひろ美術館

2018年4月～2019年3月 入館者数内訳(月別)

月	開館日数	有料入館者数		無料入館者数							全入館者数	1日平均入館者数
		大人	小計	中学生	小学生	幼児	支援会員	その他無 料	松川村 招待者	小計		
4	28	6,836	6,836	145	373	541	7	1,006	243	2,315	9,151	327
5	26	11,724	11,724	368	561	747	5	1,497	289	3,467	15,191	584
6	28	8,015	8,015	219	139	262	7	891	190	1,708	9,723	347
7	25	11,796	11,796	372	715	622	2	1,263	263	3,237	15,033	601
8	31	24,423	24,423	1,538	2,381	1,798	6	2,610	432	8,765	33,188	1,071
9	26	13,492	13,492	137	433	735	11	1,699	201	3,216	16,708	643
10	29	14,539	14,539	162	243	496	11	1,219	270	2,401	16,940	584
11	28	9,872	9,872	89	326	428	8	882	200	1,933	11,805	422
12	15	1,573	1,573	24	123	144	11	872	160	1,334	2,907	194
3	30	3,964	3,964	184	314	398	5	1,558	209	2,668	6,632	221
合計	266	106,234	106,234	3,238	5,608	6,171	73	13,497	2,457	31,044	137,278	516
構成比		77.4%	77.4%	2.4%	4.1%	4.5%	0.1%	9.8%	1.8%	22.6%	100.0%	
前年合計		97,442	97,442	2,856	5,444	5,331	68	10,691	2,111	26,501	123,943	523
前年比		109.0%	109.0%	113.4%	103.0%	115.8%	107.4%	126.2%	116.4%	117.1%	110.8%	98.7%

- * 2018年4月～2019年3月の入館者総数は137,278名(1日の平均入館者数516名)。2017年度に比べ13,335名の増加(前年比110.8%)、目標数150,000名に対しては12,722名の未達(達成率91.5%)。
- * 2017年度は、屋根工事のために冬期休館を例年より2週間早め、11月8日からとしたことで、開館日数は237日となった。生誕100年の2018年度は、ちひろの誕生日の翌日12月16日まで開館し、開館日数は2017年度より29日多い266日であった。
- * 入館者の内訳は、有料入館者数106,234名(全体の77.4%)、無料入館者数31,044名(全体の22.6%)。
- * 入館者全体における割合は、大人(支援会員、その他無料、松川村含む):中学生:小学生:幼児が89:2:4:5(2017年度は89:3:4:4)。
- * 5月18日の国際博物館の日とちひろの命日8月8日のちひろ忌は、入館料を無料とした。
- * 例年通り敬老の日(9月17日)は65歳以上の方の入館料を無料とした。
- * 2018年度は、白馬から松本までの各市町村ごとの入館無料デーと長野県民無料デーを実施し、計2,186名が来館(2017年度は1,344名)。内訳:4月22日 池田町民・生坂村民(50名)、5月20日大町市民(81名)、6月3日松本市民(120名)、9月2日 白馬村民・小谷村民(62名) 9月30日安曇野市民(154名)、12月2日 長野県民(432名)、3月10日 松川村民(33名)、3月24日長野県民(1,254名)。
- * 年間パスポートの販売数は43枚・107,500円、リピーターを含む延べ利用者数は275名。
- * Life展パスポートの販売数は554枚・554,000円、Life展パスポートのリピーターを含む延べ利用者数は1,226名。
- * 有料入館者数のうち、旅行会社等のクーポン利用者数は11,393名。有料入館者全体に対するクーポン利用率は10.7%(2017年度は9.1%)。
- * 団体入館者数は、25,034名(2017年度は22,410名・前年比112%)。入館者全体に対する団体の割合は18.2%(2017年度は18.1%)。団体入館者のうち、台湾や韓国など海外からの来館者は963名と前年より156名増加(2017年度は807名)。
- * 入館者137,278名のうち、団体入館者数を除く、一般入館者数は、112,244名(2017年度は101,533名。前年比111%)。

■2018年度 事業報告書の附属明細書

当財団の事業報告書については、附属明細書に該当する事項がないため、附属明細書を省略する。